

佐原の町並み

かわら版

第 2 6 号
平成12年3月
発行 小野川と佐原の
町並みを考える会
佐原町並み保存会

横浜・小田原の観光ボランティアと交流

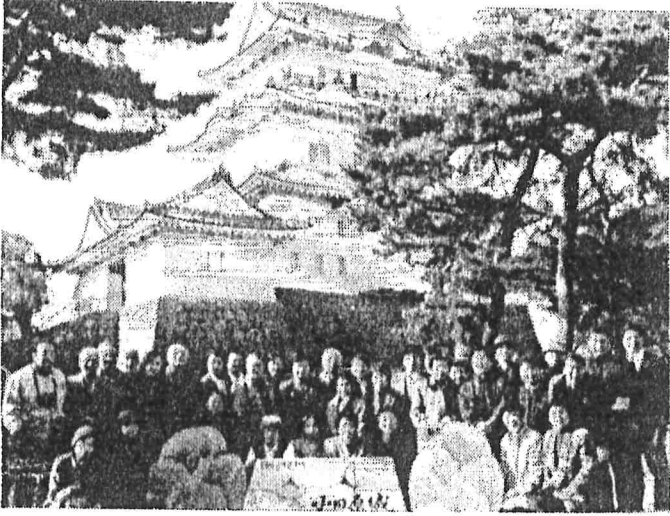
先進地の案内を直に体験する研修会を二月二十、二十一日に「小野川と佐原の町並みを考える会」と「町並み案内ボランティアの会」の会員を中心に三十九名が参加。案内を受けることにより、当地の印象が深まる重要さを体得できた。

早朝佐原を出発し、まず横浜へ。アンティークな洋館、中華街等広範囲な案内箇所を観光客のニーズに合わせてガイドしている様子がわかる。



横浜シティガイド会員の説明を聴く

その後、風雨で寒い中、町の案内を受けた。開港記念館には、ペリー提督が上陸した当時の絵の中に描かれていた楠の木が在り、条約調印の生き証拠として、



小田原城前にて

た。会の活動内容の説明を受けた後、小雨に煙る横浜を一望できるターミナルから横浜の説明を受けた。ベイブリッジを境に大型船の漂う内港、ランドマークタワー、観覧車、倉庫群、ホテル群が建ち並んでいる。山下公園、外人墓地、

その姿をとどめている。実在し、たという証は見る者に感動を与

えた。案内する側として、説明の言葉、雰囲気の大切さがわかった。翌日は、小田原城の案内を受ける。城の入口にある観光ボランティアの詰所を訪問。定年後の方々に運営されていた。案内の方々は共通の帽子をかぶっており、説明を受けながらの移動に大変便利であった。佐原の町並み案内人にも共通するものがあると便利だという声が多く聞かれた。

案内を受けたことで、北条氏の偉大さを感じることができた。今回の研修会で、案内はお客様の心を引き付ける表現の大切さを学びとった。

案内人の方々、ユーモアのあるバスガイドにも恵まれて、得るものが多い研修会であった。

町並み案内のパワーアップを目指して

観光客の皆さんに「佐原へ来て楽しかった。」と満足していただく研修会が二月十六日に開催されました。

これまではシーズンオフの冬場に団体の観光客が訪れることは本当に少なかったが、今年ボランティアが案内しただけでも二月に十四組(四四二名)が来ています。案内なしの団体や個人客も含めるとかなりの人数になります。お客様に満足して観光していただき、何回も佐原へ来てもらうことが、これからの町の発展につながります。一度きりの観光地としてはなく、次に続くことが大事です。

そのために、温かいおもてなしの心はもちろん、案内ボランティアの質の向上を目指す必要があります。第二回目の研修会を実施しました。午後一時から山車会館内で、案内ボランティアの吉田会長より、「佐原の山車祭り」の解説、八坂神社、水天宮の歴史の説明を受け、その後、町並みの案内ポイントを学びました。

伊能記念館では、西野館長の話をうかがった後、青木学芸員から

新たに丸形ポスト4基が町並みに



テープカットする来賓の方々

これまで市内に残っていた丸形ポストに加え、大木商店脇、磯徳商店前、馬場酒造前、ダイボシ前

の四箇所に着懐かしい丸形ポストが付替えられました。「町並みに合ったポストを！」という本会の強い願いにより、佐原郵便局のご協力で実現しました。丸形ポストは既に製造中止となっており、全国に六千基ほどしか残っていません。そのため、郵便局長さんが近県に手配し、茨城・神奈川県から探し出して下さった貴重なポストです。ポストの設置を祝い、三月四日に磯徳商店前でテープカット式が行われました。鈴木市長・荻原郵便局長・菅井商工会議所会頭・行木観光協会副会長をお迎えし、加瀬会長の挨拶後に、テープにハサミが入り、見物の皆さんから大きな拍手。

これを機にハガキ等を書いて、ポストを利用してはいかがでしょうか。



館内展示の説明を受けました。参加者は観光客の気分以案内を受けましたが、改めて気付いたことも多く、大変勉強になりました。



学芸員の説明に聴き入るメンバー

研修会で学んだことをこれから案内に生かして、観光客に喜んでもらえる案内が期待できます。